



014号(2012年12月29日)

目次

第9回全国大会を開催
2012年度総会の報告
大学教員対象ワークショップ開催
ワークショップ(アドバンス)開催
名古屋支部「授業研究会」
九州支部「授業づくり研究会」
出版情報

第9回全国大会を開催

9月22日(土)～23日(日)の2日間、日本歯科大学新潟生命歯学部にて、第9回日本協同教育学会全国大会が盛大に行われました(大会委員長：益谷真先生(敬和学園大学))。また、前日の21日(金)には、プレ・イベントとして全校体制で「自主協同学習」の実践をしている新潟市立宮浦中学校で授業公開・検討会が行われました。大会では小学校・中学校・高校・大学における実践報告、研究発表、そして、ラウンド・テーブル。さらにLTD 学習法やプロジェクト・アドベンチャーなどのワークショップが行われ、非常に充実した2日間の大会になりました。



左：会場入り口、右：ワークショップ風景

23日の午後の記念講演では、中田力先生(新潟大学統合脳機能研究センター長、新潟大学教授、カリフォルニア大学教授)に最先端の脳科学についての関心の尽きない興味深い御講演をいただきました。また、講演終了後には、杉江修治先生と安永悟先生

も登壇され、鼎談形式で「協同教育」と脳科学の知見に関して議論が行われました。

明年(2013年)の第10回大会は北海道で11月30日・12月1日の2日間、開催の予定です。

2012年度総会の報告

全国大会の2日目(9月23日)に、2012年度日本協同教育学会総会が行われました。関田一彦会長挨拶ののち、以下の報告および審議が行われました。

1. 2011年度の会計報告および監査報告が了承されました。
2. 会誌『協同と教育』第8号の発行が報告されました
3. 第10回大会は2013年冬、札幌大学で行われることが報告されました
4. 本学会の役員が、2013年8月末に新人事に交代するので、それに向けて明年6月から役員選挙の手続きが進められることが報告されました
5. 認定ワークショップ<マスター・コース>開設の準備が進められていることが報告されました
6. 会費の納入率を改善するため、事務局から納入をお願いする働きかけをすることが了承されました
7. 2013年度から、会員制度が一部変更され、学生会員を廃止し、一般会員に一本化することが了承されました
8. 認定ワークショップ参加費の割引制度を変更し、本大会以降の認定ワークショップでは、参加者には「会員割引」「学生割引」「リポーター割引」のいずれかひとつの割引が適用され、割引の重複を廃止することが了承されました
9. 本年度総会までに、2011年度24

名、2012年度30名の新入会員がいたことが報告されました
10. 2012年度予算が了承されました。

大学教員対象ワークショップ開催

10月20日(土)、関西国際大学尼崎キャンパスで同大学と共催の「協同学習ワークショップ」が開催されました(講師：関田一彦先生)。当日は、北は秋田から南は九州までの各大学等から27名が参加しました。「これまでのグループ学習では、ある程度活動内容を明確にしているつもりでしたが、今回のワークショップを受講して、さらに細かな指示を与え、目的意識を持たせることで、良い結果をもたらすことに気づきました」などの感想があり、アットホームな雰囲気で行われました。

ワークショップ(アドバンス)開催

名古屋で11月10・11日の両日、南山大学人間関係研究センター主催の協同学習ワークショップ(アドバンス)が関田一彦先生を講師に開催されました。参加者は約20名で、「協同学習は技法ではあるけれども、『考え方』であるということであらためて確認できた」「授業に具体的にどう活かすか、という次のステップが明らかになった」「多くの仲間ができ、こうした仲間と安心感の中で体験的に学ぶことで、協同学習が“実感”として入ってきた」などの感想が寄せられました。(石田裕久)



南山大学でのワークショップ

JASCE

名古屋支部「授業研究会」

8月例会は8月28日(月)午後7時から名古屋大学教育学部で開催されました。テーマは「協同の学びにむかう教師の実践知・授業観の解明」です。報告者は、名古屋女子大学短期大学部講師の清道亜都子先生と名古屋市立桜台高等学校教諭の水野正朗でした。生徒の主体的な学びの実現を目指す水野の授業の背景にある実践知(授業観や信念、方法論)を授業の事実をもとに解明しようという試みです。インタビューによる実践者のナラティブデータと学習者が書いた作文など実際の学習成果の客観的な分析結果としてのエビデンスとを統合し

た実践知研究を開拓であったということでも興味深いものでした。

10月例会は10月15日(月)午後7時から同じく名古屋大学で開催されました。テーマは「エビデンスに基づく教育」です。報告者は、岐阜県各務原市立緑苑小学校教諭の森俊郎先生でした。このテーマは、日本の教育実践研究におけるエビデンスの構築について再考するという意味で8月例会と響き合うものでした。実践者(教師)と研究者の関係のあり方、行政が教育に関与することの有効性と危険性の指摘などについて議論しました。教師が子どもたちと格闘しながら実践を積

み重ね、それを記録し反省することで実践知(理論)を形成している側面を研究者は軽視してはならないとの指摘が、参加者から出されるなど、教育実践研究における協働のあり方という喫緊の課題に関心が集まりました。

12月10日(月)の12月例会については次号にて報告予定です。(事務局：名古屋市立桜台高等学校 水野正朗, mizunokita@yahoo.co.jp)。



8月例会で報告する水野先生

●九州支部「授業づくり研究会」

10月6日(土)と11月17日(土)に、久留米大学御井キャンパスにて九州支部「授業づくり研究会」を行いました。10月の研究会では、仲間との交流ののち、安永悟先生(久留米大学)を講師に、LTDの基本事項と過程プランをジグソー学習法で学びました。次いで、須藤文先生(太宰府東小学校)が非連続型テキスト(絵や写真など)の読解を通して表現意欲を喚起し、書く力を劇的に伸ばす看図作文について報告しました。



看図作文を披露している様子

11月の研究会では、仲間との交流ののち、安永先生が「高大接続教育と協同学習」とのタイトルで本年6月に

文科省が打ち出した「大学改革実行プラン」の概要を紹介し、今後期待される高大接続教育について、協同学習の観点から報告しました。次に、甲原定房先生(山口県立大学)が「不確定志向性からみた個人の違い」について話され、先が見通せない曖昧な場面(不確定な場面)に直面したときに人が示す反応の考え方と研究例を紹介し、協同学習場面も含めた教育に及ぼす影響を検討しました。そして、石丸文敏先生(小郡市立大原小学校)が「特別支援学級での看図作文の実践」とのタイトルで、10月の研究会で紹介された看図作文を早速、試してみた報告をしました。

●出版情報

2012年8月18日、杉江修治著『協同学習叢書10 改革の合ことは協同』が一粒社より発行されました(145頁、税込1,400円)。「日本各地で始まってきている授業改善の試みでは、そのほほすべてで

「学び合い」が組み入れられています。ただ、手法としての学び合いでは、今めざすべき学力の達成は難しいでしょう。そういった活動

の基盤に「協同」の原理が置かれなくてはなりません。本書は、授業改善にとどまらず、地域ぐるみの教育改革に協同原理を導入する挑戦を続けてきた著者の基本的な考え方を、実践に即して示したものです(著者)。注文は直接一粒書房(0569-21-2130 page1@ltsubu.com)へ



<本学会の問い合わせ先>

学会関連：office@jasce.jp

論文投稿：editor@jasce.jp

ホームページ：http://jasce.jp/